

いつもの年であれば、3年生は修学旅行中かもしれません。また全校では体育大会に向けての練習がスタートしたところでしょうか。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で行事はおろか、授業すら行うことができません。ここまで長く生徒が登校することができない事態になるとは予想もできませんでした。このあとも、まだまだ先行きのわからない状況であり、生徒の皆さんも保護者や地域の皆さんも不安な気持ちでいることと思います。今後の授業や学校行事の予定や内容について、生徒の皆さんには、できる限りのことをさせてあげたいが、それがかなわない場合にはどうするのか、そして何ができるのか、学校では全職員が考え話し合いを重ねています。

今は、一人一人が希望を見失わずに、感染防止に向けてできることをやっていくことが大事なのではないでしょうか。

皆さんは、吉田松陰という人を知っていますか。名前を聞いたことがありますか。彼は、江戸時代後期、幕末に活躍した人です。何をした人なのかというと、当時の長州藩、今の山口県の「萩」というところで、「松下村塾」という学校を開きました。そこでは彼は松陰先生と呼ばれ、後に初代総理大臣となった伊藤博文も彼の門下生でした。彼は「**至誠(しせい)を貫きなさい。至誠とは、普段やらなければならないことを、真剣に本気で、誠意をもってやることです。**」ということを徹底して教えたそうです。では、これを皆さんにおきかえますと、次のようになります。あいさつはしっかりと、絶対に遅刻はしない、人の話をちゃんと聞く、目の前にある役割を曇りなく果たす、そういうことを誠心誠意やりなさいということなのです。何でもそうですが、普段どれだけのことをやっているか、この普段が大事なのです。時代は変わっても昔も今も、松陰先生の教えである「普段の生活で、至誠を貫くこと」は、人としてたいへん大切なことだと思います。世の中には、思い通りにいかないことがたくさんあります。理不尽だなと思うことも多く存在します。でも苦労しながらも、それを経験し乗り越えることができたとき、その困難は自分にとって貴重な学びの機会だったと、自分の心の成長に必要だったと思えるはずです。

今はコロナに負けないよう、感染防止に万全を期し、また出口のないトンネルはないと信じて、できること、やらなければならないことに、しっかりと取り組んでいきましょう。

校 長 佐 竹 聡